

■⑤-2 圧迫感の軽減についての検討

○桁高縮小による比較



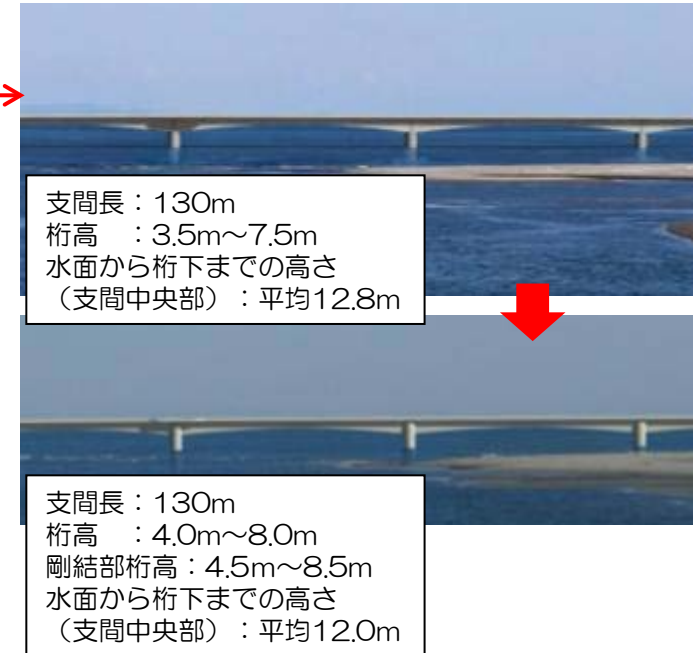
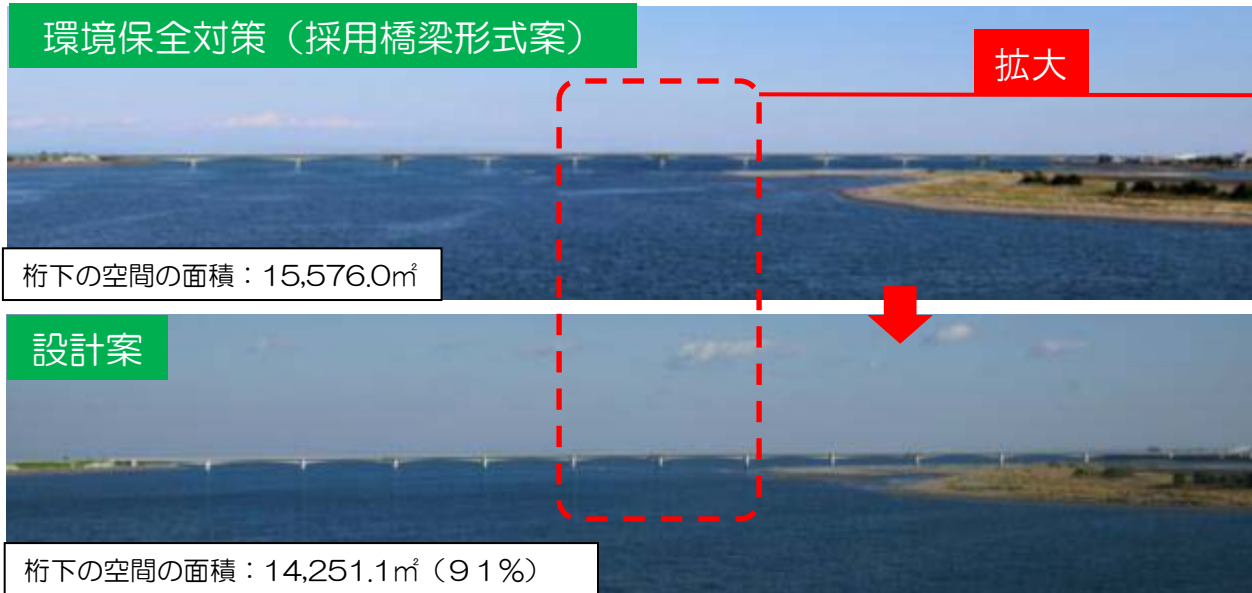
標準案として
採用



設計案（桁高8.0m）と環境保全対策（橋梁形式：桁高7.5m）を比較しても差異は少なく、圧迫感に大きな違いは無いと考えられる。

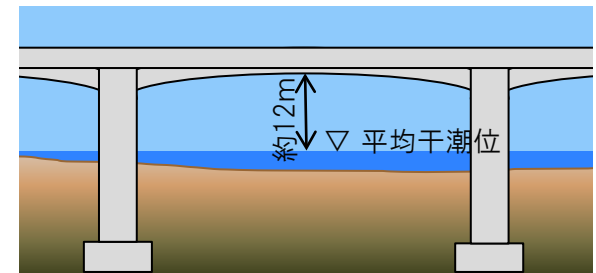
■⑤-2 圧迫感の軽減についての検討

○鳥類の飛翔空間に与える影響



※ 桁下空間の算出は、左岸、右岸堤防間とし、水位は平均干潮位（T.P.-0.528m）とした。
（）内は、環境保全対策（採用橋梁形式案）を100とした場合の比率

設計案（桁高8.0m）と環境保全対策（橋梁形式：桁高7.5m案）と比較しても、桁下空間に大きな違いは無いと考えられる。



■⑤-2 圧迫感の軽減についての検討

○橋梁交差部の圧迫感



標準案として
採用



A1橋台背面を連続カルバート化や、橋台前面の角をサークルハンチとすることで、交差道路を通過するドライバーから見たコンクリート壁や盛土構造による圧迫感が軽減されたと考えられる。